

CONTENTS

巻頭言 読書のススメ (小児科学講座 大山建司)

1階ロビーに空調設備が取り付けられました

第6年次の学生へも自動入退館システムによる
特別利用を試行的に拡大しました

自動入退館利用の皆様へ

YMUnetによるMEDLINE利用状況(報告)

雑誌の動き

本学教官著作寄贈図書

FROM desk side / 文献複写担当から

MEDLINE Q & A

新着図書案内

編集後記

読書のススメ

小児科学講座 大山建司

明けましておめでとうございます

年頭の図書館便りを依頼されましたが、ふだん文献検索以外には殆ど図書館に足を向けることがありませんから、何を書いてよいのか戸惑っています。最近、読書について感じていることを少し書いてみたいと思います。

”読書は好きですか”と聞かれれば、”昔はよく読みましたが、最近はほとんど”と答えると思います。仕事柄、医学文献はかなり読みますが、所謂小説の類は読書好きの人と比べると、かなり少ないと思います。

子供の頃から読書が趣味で、印象に残った小説の話を楽しそうにする友人（もちろん医者ではありません）がいますが、話を聞いていると明らかに感性の違いを感じることがあります。彼の話は科学的ではないので、論理の飛躍はありますが、発想の広がり、創造力の豊かさにはしばしば驚かされます。自分の許容量の少なさを痛感させられます。専門分野の知識は豊富で、所謂インテリと言われている人の中には、実はそうした創造力の少ない人も多いような感じがします。

世間に眼を転じても、子供の頃から受験戦争に巻き込まれ、次のステップに必要な書物にしか出会えず、わずかな時間をテレビやマンガで過ごす子供達を見ていると、これで良いのかと不安になります。最近では大学生やサラリーマンの中にもマンガを読んでいる人が増えているような気がします。時間的に短時間で読む（見る）ことができるマンガは、画像処理されているため、テレビ時代に育った世代にはうってつけでしょうが、深い思考力と豊かな創造力を養うには、これで十分なのでしょうか。子供も大人もせかされて生きているような時代に、パッと入り、パッと出ていき、気分転換ができ、しかもすぐ忘れることができる便利なものではありませんが、何だかゆとりが感じられません。

子供の頃から頭（こころ）の中に創造力という膨らみを持って育つことは、大人になってから直面する様々な出来事に対し、柔軟な対応をもたらしてくれると思います。自然と親しむこと、多くの人や物と出会うことと同じように、書物との出会いがその後押しをしてくれるのではないのでしょうか。

今年は猪歳ですが、こういう歳こそ猪突猛進は避けて、図書館でゆっくり長編小説でも読むのも良いのではないかと思っています。

1階ロビーに空調設備が取り付けられました。

従来、とくに冬季は、玄関や研究棟に通じている通路出入口から冷たい風が入ってきて寒いので、それを補うためにカレント雑誌が配架してある1階ロビーに、空調設備が取り付けられました。

第6年次の学生へも自動入退館システムによる特別利用を試行的に拡大しました。

これまで大学院生以上の研究者を対象にしていた特別利用を平成7年1月6日から、医師国家試験を控えた第6年次の学生へも試行的に拡大しました。

以下に、申請方法および利用についての主な項目を記します。

対象者：第6年次の学生の中の希望者

申請方法：図書館カウンターで申請書を受け取り、所要事項を記入の上、提出してください。

利用期限：カードは、卒業まで貸与するものです。卒業前に必ず返却してください。

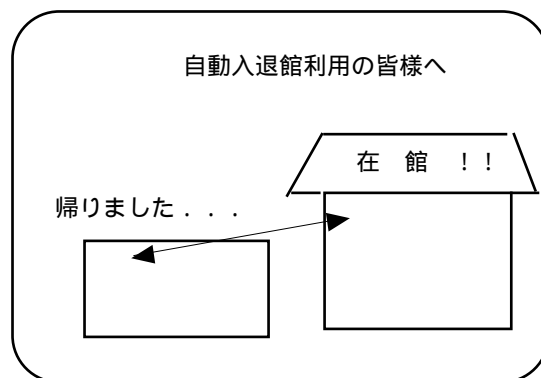
利用制限：図書の貸出（返却期限超過）や館内での飲食等、図書館利用規則に違反している場合は貸与しません。また、カード貸与後に図書館利用規則および特別利用要項に違反があった場合は、利用停止となりますのでご注意ください。

その他、詳細につきましてはカウンター係員にお問い合わせください。

自動入退館利用の皆様へ

特別利用の退館時、館内に人が残ってるかわからないため、照明を消してよいか迷うので、何か考えてほしいという要望がありました。

そこで、照明のスイッチの隣にマグネットボードを取り付けました。入館時に、マグネットを「在館！！」のところへ移動してください。退館の際は、「在館！！」のところのマグネットを照明を消す際の目印にさせていただきますので、マグネットは所定の位置に必ず戻してください。



YMUnetによるMEDLINE利用状況（報告）

94年8月より、研究室からもMEDLINE検索ができるようになりました。そこで94年12月までの利用状況を表にまとめましたので報告いたします。

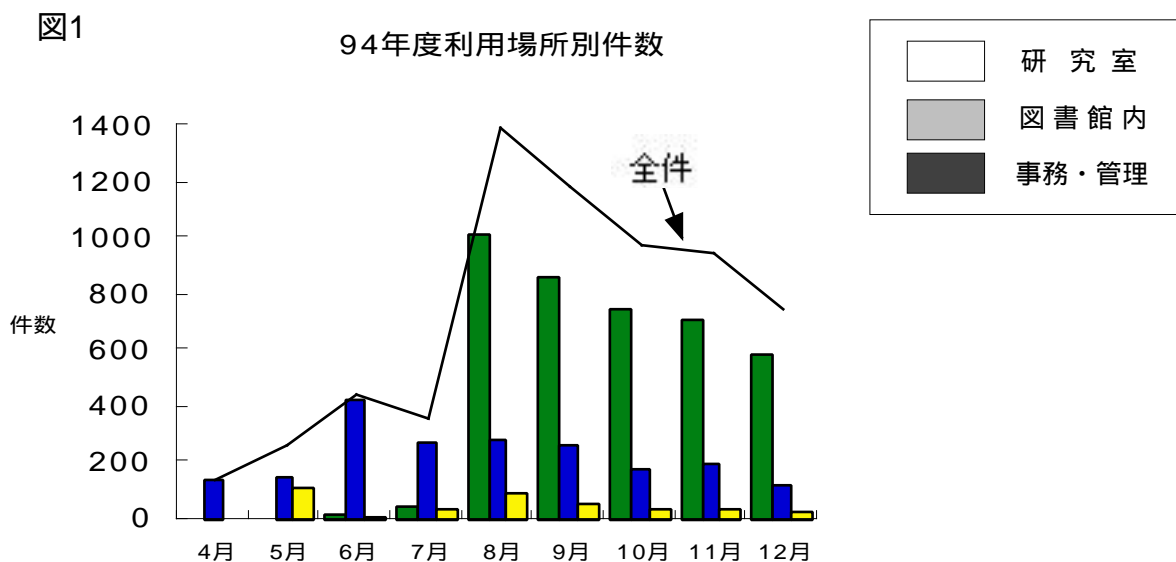


図1：8月より研究室からの利用が飛躍的に増大していることがわかります。

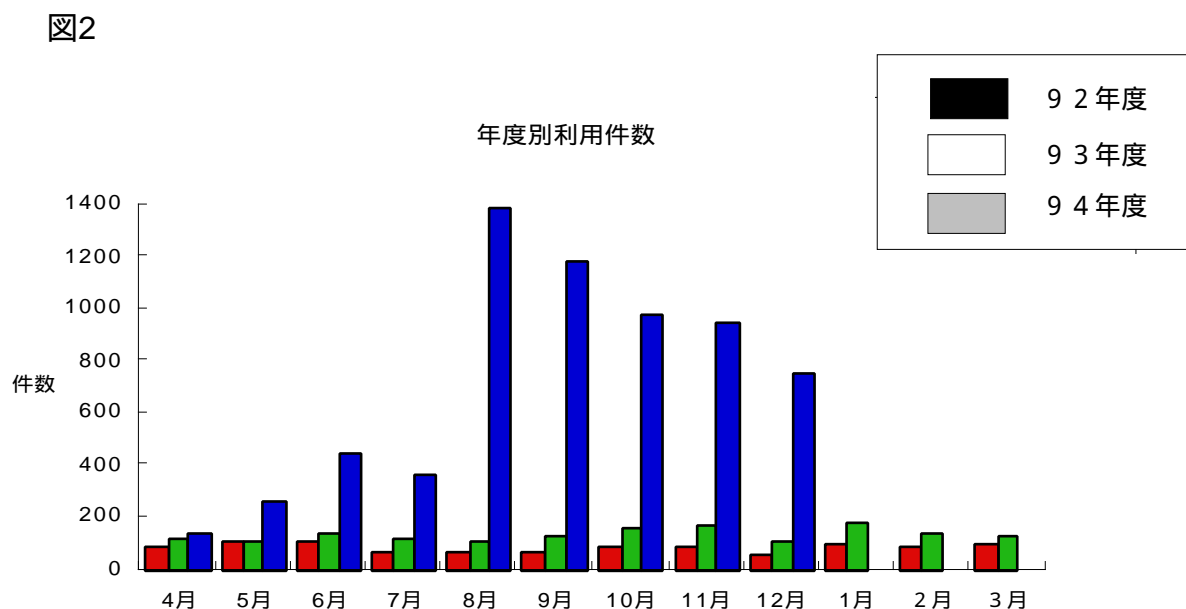


図2：年度別に見ても、8月より利用件数が飛躍的に増大していることがわかります。

雑誌の動き

新規

Acta dermato-venereologica	V. 75 (1995)	皮膚科
American journal of dermatopathology	V. 17 (1995)	皮膚科
American journal of respiratory & critical care medicine	V.151 (1995)	救急部
American journal of rhinology	V. 9 (1995)	耳鼻咽喉科
Clinical radiology	V. 50 (1995)	放射線科
Dermatologic surgery	V. 21 (1995)	皮膚科
Dermatology	V.190 (1995)	皮膚科
Diabetes	V. 44 (1995)	保健学Ⅰ
European journal of nuclear medicine	V. 22 (1995)	放射線科
International journal of dermatology	V. 34 (1995)	皮膚科
Journal of cutaneous pathology	V. 22 (1995)	皮膚科
Journal of nuclear medicine	V. 36 (1995)	放射線科
Radiology	V.194 (1995)	放射線科
Lisa : Life support and anesthesia	V. 2 (1995)	麻酔科

中止

Abriged index medicus	V. 25 (1994)	第二内科
American journal of clinical oncology	V 17 (1994)	放射線科
Archives of otolaryngology-head & neck surgery	V.120 (1994)	耳鼻咽喉科
Internatinal journal of development neuroscience	V. 12 (1994)	産婦人科
Journal of ambulatory monitoring	V. 7 (1994)	第二内科
Journal of clinical microbiology	V. 32 (1994)	微生物学
Journal of environmental psychology	V. 14 (1994)	心理学
Nutrition and cancer	V. 22 (1994)	保健学Ⅰ
Seminars in nuclear medicine	V. 24 (1994)	放射線科
Seminars in oncology	V. 21 (1994)	放射線科
Seminars in radiation oncology	V. 4 (1994)	放射線科
Time	V.144 (1994)	第二内科
Vision research	V. 34 (1994)	眼科
日本医事新報	No.3688 (1994)	第二内科

誌名変更
Journal of inflammation V. 45 (1995)
Formerly: Circulatory shock

Journal of occupational & environmental medicine V. 37 (1995)
Formerly: Journal of occupational medicine

Minimally invasive neurosurgery V. 36 (1994)
Formerly: Neurochirurgia

廃刊
National library of medicine, current catalog 1993

本学教官著作寄贈図書

御惠贈ありがとうございます。図書館の蔵書として広く利用に供させていただきます。

川生 明 (病理学講座第2教室教授)

組織細胞化学1994 : 第19回組織細胞化学講習会(実行委員長 川生 明)

/ 日本組織細胞化学会編 学際企画 1994.8

FROM desk side / 文献複写担当から

文献複写は、年々増加の傾向であり、特に学会が集中する時期は学外への依頼数が急増しています。また、昨年、YMUnetの整備により『Medline』が図書館に来なくても学内の研究室から検索できることで利用が拡大され、文献複写の依頼数が増加しました。

たくさんの方々にできるだけ早く文献が届きますように、以下のことについて申込者の方々のご協力をお願いします。

申込をする前に必ずOPACまたは雑誌目録で図書館に所蔵していないか確認してください。また、学内研究室で所蔵している資料もできるだけ有効利用をはかるようにしてください。

申込書は1論文につき1枚に記入してください。

誌(書)名、ページ、発行年に加えて、できるだけ著者名、論文名を記入してください。

記入する文字は、判読できるわかりやすい文字でお願いします。

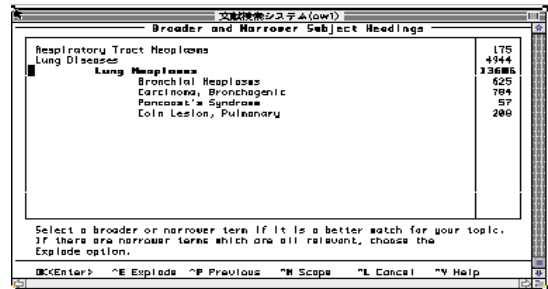
MEDLINE Q & A

Q: MeSHについて教えてください。

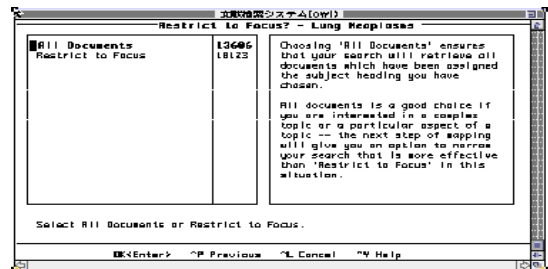
A: MEDLINEを作成しているNLM（米国国立医学図書館）では、論文一つ一つのその記述内容に対して、最も的確な見出し語を、統制された用語集（シソーラス）より選択して付与しています。その統制された用語は現代約1万6千語存在し、医学の進歩に伴い、毎年追加、修正、削除が行われ、MeSH（Medical Subject Headings）と呼ばれます。

MeSH語は、その機能により主に3種類に分類されます。

1.MeSH: 医学・生物学の概念すべてを表わす約1万6千語で、疾病や薬品、器官など15カテゴリーに分類され、用語がもつ意味の広さで概念上の上位/下位の階層構造(Tree Structures)を持っています。



< 図1 >



< 図2 >

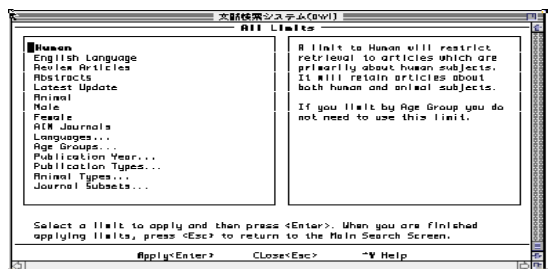
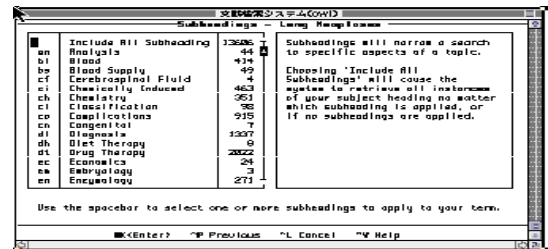
図1では「Lung Neoplasms」を例にして検索した階層構造を示す画面です。下位概念を含めて検索したい時は、^Eを実行します。

また、^Toolsのコマンドを使用して、冊子体と同じようにその構造は確認できます。

論文に割り当てられたMeSHのうち、その論文の主論点に当たるキーワードはMajor MeSHに、周辺論点を示すものはMinor MeSHに分けて収録されます。

< 図3 >

Major MeSHだけを付与された論文だけに絞りたい時は、Restrict to Focusを選び、Minor MeSHを含めてもよい時は、All Documentsを選びます。（図2の画面例）



2.Subheadings: MeSHと組み合わせてその内容を更に限定するための形容詞句で、約80語存在します。（図3の画面例）

< 図4 >

3.Check Tags: 研究の対象（人間、動物、性別、年齢等の限定）や、その種類、論文の形態などを表わす約40の用語をさします。^G Limit Setでこの用語を使った限定を簡単に行えます。図4では、Humanを例に画面で表示しました。

MeSHについての詳細は、図書館の情報検索用参考資料として冊子体

『Annotated Alphabetic List』 『Permuted MeSH』 『Tree Structures』 もありますのでご覧ください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

寒さが本格的となり、朝が非常につらい日々が続いておりますが、皆さんどのようにお過ごしでしょうか。

さて、私が図書館へ勤務してから1年半ほど過ぎましたが、以前は『図書館 = 本の置いてある所』という認識しかない人間の一人でした。しかし、ここ1年程、たしかに本も置いてありますが、今は情報に関する電子的サービスが主であると感じられます。とくにYMUnetによるMEDLINE利用状況(報告)は、学内の情報検索が飛躍的に伸びていることを表わしています。

さらに、第6年次の学生への自動入退館システムによる特別利用の試行は、図書館サービスの拡大になっています。

今後大学における図書館というのは、今よりも速く、大きく変化していくと思います。その変化についていくことは、大変だと感じますが、それに対応できないと以前のように『本を読む場所』だけになってしまうのではないのでしょうか。

(M.O)



編集 / 発行 山梨医科大学附属図書館

<TEL> 直通	73-6732	整理係	内2108
図書課長	内2106	学術情報係	内2109
管理係	内2107	カウンター	内2110